

小笠原村教育委員会教育長  
桐 川 勲 様

小笠原村立小笠原中学校長  
椎 橋 秀 行  
(公印省略)

令和 5 年度 小笠原村立小笠原中学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

【学校の教育目標】

- ・よく学び、考え、行動する人
- ・やさしくたくましい人
- ・社会の一員として貢献できる人

【学校の教育目標を達成するための基本方針】

- ア 全教育活動を通して、主体的に自ら課題を見付け学習に取り組む態度を養う。また、教科等横断的な視点に立ち、身に付いた確かな学力を活用し、直面する課題をグローバルな視点で捉え、解決する力を育むとともに、自らの力を地域や社会のために進んで役立てようとする行動力を育成する。
- イ 分かりやすく学びやすい教育を実現するために、各種学力調査の分析を基に「指導と評価の一体化」を踏まえた授業改善を図る。個性や能力を伸ばし、「個別最適な学び」による指導を充実させる。また、特別支援教育コーディネーター及び校内委員会を中心に、家庭やスクールカウンセラー、関係諸機関との緊密な連携を進め、特別支援教育の一層の充実を図る。
- ウ 小中一貫教育を推進するために、系統的な教育活動を展開し、小笠原小学校、母島小中学校、都立小笠原高等学校と研修会や合同行事、小中高教科交流等を通し、連携を図る。特に小笠原小学校とは、小中一貫教育をより具現化するために相互の理解と協議を進める。
- エ 心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進し、人間性を豊かにする。加えて、「小笠原学習」を通じて、地域の一員として自己の在り方や課題を自らのものとして捉え、解決に向けて粘り強く取り組む態度を育成する。
- オ 社会の在り方が劇的に変化する時代に対応する力を高めるために、言語活動の充実や情報機器等を活用し、問題解決的な学習や自ら立てた問いへの主体的な取組を通して、どんな状況下でも最善を尽くし、未知の状況に対応する生きる力の育成と社会的・職業的自立を図る。
- カ 地域に開かれた学校の実現を目指し、「いじめ対策学校サポートチーム協議会」、道徳授業地区公開講座、学校関係者評価等による地域との連携と、学校公開、学校ホームページ、学校便りの配布等の広報活動による情報発信を行い、保護者・地域・生徒に信頼される学校づくりを進める。
- キ 健康・安全に生活する力を培うために、食や性に関する理解を深め、自己の健康に対する意識を高め体力の維持・増進を図る。生徒との適切な信頼関係を基に、いじめや生命尊重、安全に関する指導を発達段階に応じて系統的に行う。

## 2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目及びその実績

### ① 確かな学力の向上

- ・授業評価や学力調査の結果を分析して、授業改善を行う。
- ➡授業改善推進プランの作成に授業評価や学力調査の結果を反映させるとともに、9年間の学びを見通した系統性のある年間指導計画の作成を進め、学習指導内容の改善を図ることができた。
- ・生徒の実態や学習内容の習熟に応じた指導や学年を越えて立ち戻る指導を行う。
- ➡生徒の学力向上を図るべく、2学期から週に2～3回のペースで、学年ごとに放課後学習教室を開催した。また、12月からは校内組織として「おが中寺子屋」を図書室で月に1回開催し、生徒が自主的に学習したり、進んで質問したりできる場を設定することができた。
- ・学習者端末等の教育機器を効果的に活用し、学習活動の充実を図る。
- ➡グーグルジャムボードやグーグルスライド、グーグルフォームなどのアプリを活用した授業を全教科で展開したことで、互いの意見交流が活発になり、生徒一人一人の考えを深めることができた。
- ・管理職による定期的な授業観察と指導・助言を行う。
- ➡各教員の授業を毎週1時間以上参観し、効果的な指導や授業の改善点について授業者と共有する場を設定することができた。また、各教員のもつ指導技術を共有できるように職員室広報を発行して互いの授業を見合う視点を明示したり、発問の大切さについて資料を用意して研修を行ったりするなど、校内OJTを推進した。

### ② 豊かな心の育成

- ・生徒が自他の違いを認め、尊重し合うために、考え、議論する道徳授業を校内で充実させる。
- ➡道徳の指導を輪番制で実施した。毎時間同じ学年を組む全ての教員で授業観察を行うことで、授業後に学年会等で互いの授業の成果と課題をフィードバックし、日々の学習指導に活かすなど、教員一人一人の学習指導力向上につなげることができた。
- ・日常の教育活動や多面的な面談を活用し、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努め、組織的に対応する。
- ➡発達支持的生徒指導の観点から、生徒の自己有用感を高める取組や実践、生徒の些細な変化などについて、毎月1回行われる校内委員会で情報共有や意見交換を行った。また、日々の生活を振り返る「タイムくん」というノートや定期テストに向けた学習記録、行事の振り返りカードなどを通して、生徒の思いや考えを同じ学年の教員で大切に見取ることができた。

### ③ 信頼される学校づくり

- ・授業や行事を積極的に公開するとともに、学校ホームページやフェイスブック、学校便り等での広報活動や情報発信を積極的に行う。
- ➡毎週の学年便りや毎月の学校だよりなどを通して、積極的な情報発信ができた。また、フェイスブックでも学校記事を週に2～3件ペースで随時更新し、生徒の様子を紹介することができた。
- ・地域・関係諸機関等と連携し、懇談や協議を通して教育活動の一層の充実を図る。
- ➡令和12年度の新校舎完成に合わせた義務教育学校化に向けて、小笠原小学校と小中の連携を深めるべく、部活動体験や百人一首交流、特別支援懇談会、小中学校の特別支援学級所属児童・生徒の共同授業といった新たな取組を行い、小中一貫教育を推進することができた。

### 3 関係者評価の概要

#### **【保護者】令和5年度学校評価アンケート 回収率77%（配付家庭数 61家庭）**

今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目の成果と課題を分析するため、11月に保護者に対し学校評価アンケート（4件法）を実施し、昨年度との比較を行った。また、昨年度までは「A そう思う」「B どちらかといえばそう思う」を合わせて肯定的評価として捉えた上で、成果と課題を分析していたが、今年度は「A そう思う」・「E 答えられない・わからない」に着目し、E層の保護者をいかにしてA層に引き上げていくかに主眼を置いた分析に変更した。

- ・学校評価項目6「学習指導全般において、基礎基本の定着に努めている」では、A評価が前年度よりも6%向上させることができた。「放課後学習会の時間を作っていただけてとてもありがたいと思っています。」という声をいただくなど、今年度2学期から始めた放課後学習教室の取組が評価された結果と考える。
- ・学校評価項目14「授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている」では、E評価（わからない）が前年度よりも9%増えるなど、学校の情報教育の実態を保護者に伝えきれていない部分がある。これは、生徒が学習者端末を活用する場面が保護者の目に触れる機会が乏しいことが一因と考える。
- ・学校評価項目7「生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している」では、年度末A評価を30%以上にするを目標としていたが、17%にとどまり、さらにE評価（わからない）が23%増加するなど、教師の授業改善の取組などが、保護者に十分に周知されていないことがわかる。
- ・学校評価項目12「生徒の道徳性を高めるために、全教員で道徳授業に取り組むなど、授業を工夫している」では、年度末のA評価を40%以上にするを目標としていたが、30%にとどまり、さらにE評価（わからない）が前年度よりも15%増えるなど、本校の道徳教育の実践が十分に伝わっていないことが考えられる。
- ・学校評価項目16「生活指導上の諸問題（いじめ等を含む）に対して適切な指導が行われている」では、E評価（わからない）が昨年度から25%増加するなど、本校の生活指導が見える化されていないことがわかる。また、「最近不登校の子が増えているように見受けられますが、不登校の子に対する学校の対応やフォロー体制はどのようになっているのか知りたい。」というお声をいただくなど、本校の不登校対応についても広く共通理解を図っていくことが重要である。
- ・学校評価項目2「学校便りや学級だよりを通じて、学校や生徒の様子等、いろいろな情報を発信している」では、昨年度に引き続き約半数の家庭からA評価を受けた。「手紙や保護者会等で少しずつ学校の取り組みが分かってきた感じです。」という声をいただくこともできた。一方で、学校評価項目20、21の学校ホームページ・学校Facebookについては、今年度は掲載数などを増加させたが、活用の頻度が著しく低いことが伺える。

#### **【生徒】令和5年度授業アンケート・生活アンケート 回収率92%（配付生徒数 68名）**

所属教員の授業改善状況及び生徒の学習への指向性を把握するため、6月と11月に全生徒を対象としたアンケートを実施した。また、生徒のつまずきや学校生活への不安を早期発見、共有したり、生徒と教員の信頼関係を構築したりするために、6月、11月、2月に生活アンケートを実施した。

- ・授業アンケート項目（2回目）11「ICT機器（Chromebook、TVモニター等）を使った教材は効果的でしたか。」の質問に対し、全学年どの教科でも80%以上の生徒がA評価（そう思う）を選択している。学習者端末等の教育機器を効果的に活用することで、学習活動の充実が図れていることが伺える。
- ・授業アンケート（2回目）項目1「授業を受けることが「楽しい」と感じられる。」の質問に対しては、A評価（そう思う）は全教科平均して約50%程度にとどまっている。教員の授業改善についての取組が生徒の学びの「楽しさ」に十分につながっていないと考えられる。一方で、「補習のおか

げで理解が深まった。」という生徒の意見が各教科のアンケートで上がってくるなど、今年度2学期から始めた放課後学習教室の取組が生徒にもよい影響を与られていると考える。

- 生活アンケート項目1「楽しい学校生活が送れていますか。」の質問に対しては、6月の1回目のアンケートでは、A評価が43%（27人）だったのに対し、2月の3回目のアンケートでは、51%（32人）まで向上させることができた。日常の教育活動や行事において、生徒が活躍する機会を豊富に設定したことで、生徒の励みになったのではないかと考える。一方で、依然としてA評価は半数程度にとどまっているため、中位のB層（まあそう思う）を引き上げることや、1.6%（1人）のC層（そう思わない）の生徒の不安要素である学習面の困難さに寄り添う方策も考える必要がある。
- 生活アンケート項目6「悩みがある時に相談できる人はいますか。」の質問に対し、いいえと解答している生徒が14%（9人）であった。多面的な面談や「タイムくん」、定期テストに向けた学習記録、行事の振り返りカードなどを通して、生徒の思いや考えを大切に見取り、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努めてきたが、十分ではないことが読み取れた。様々な立場の大人や関係諸機関など、生徒が悩み事を相談できるところについて積極的に紹介するとともに、生徒一人一人に寄り添う生活指導上の取組について、改善が必要である。

#### 4 本年度の取組内容及び自己評価

A…目標の内容について十分達成した B…目標の内容について概ね達成した C…目標の内容について達成の状況に課題がある。

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組①	確かな学力の向上 【目標の達成状況：B】	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価や学力調査の結果を分析して、授業改善を行う。</li> <li>生徒の実態や学習内容の習熟に応じた指導や学年を越えて立ち戻る指導を行う。</li> <li>学習者端末等の教育機器を効果的に活用し、学習活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートからは、生徒が授業を通して「わかる」「できる」を十分に体感できていないことがわかった。次年度は9年間の学びを見通した系統性のある年間指導計画の完成を目指すとともに、校内研究組織を立ち上げ、教員の授業改善に組織的に取り組んでいく。【取組内容の達成状況：C】</li> <li>今年度2学期から始めた放課後学習教室は、保護者、生徒双方から評価された取組であった。そのため来年度については、年間計画に毎週1回程度、放課後学習の機会がもてるように予定を組み、生徒の基礎学力向上に努める。【取組内容の達成状況：A】</li> <li>生徒からはICT機器を活用した授業が評価される一方で、学校の情報教育の実態を保護者に伝えきれていない部分があった。生徒が学習者端末を文房具のようにして家庭で日常的に使用する機会を増やしていくことで、保護者に対して本校の情報教育についての一層の理解を図っていく。【取組内容の達成状況：B】</li> </ul>

<p>取組 ②</p>	<p>豊かな心の育成 【目標の達成状況：B】</p>	<p>・生徒が自他の違いを認め、尊重し合うために、考え、議論する道徳授業を校内で充実させる。</p> <p>・日常の教育活動や多面的な面談を活用し、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努め、組織的に対応する。</p>	<p>・学校評価アンケートからは、本校の道徳教育の実践が十分に伝わっていないことが読み取れた。学校便りや学級便りなどの情報発信については、昨年度に引き続き高評価を得ていることから、道徳授業についても、こうした教員の実践を月1回程度学級便りに掲載することを通して、保護者の理解を深めていく。また、校内研究の柱として、道徳を設定し、「考え、議論する道徳」の一層の推進を図る。【取組内容の達成状況：B】</p> <p>・多面的な面談や「タイムくん」、定期テストに向けた学習記録、行事の振り返りカードなどを通して、生徒の思いや考えを大切に見取り、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努めてきたが、十分ではないことが読み取れた。相談体制を整えるとともに、生活アンケートの内容項目についても見直し、生徒の思いがより一層くわしく読み取れるものにする。【取組内容の達成状況：B】</p>
<p>取組 ③</p>	<p>信頼される学校づくり 【目標の達成状況：C】</p>	<p>・授業や行事を積極的に公開するとともに、学校ホームページやフェイスブック、学校便り等での広報活動や情報発信を積極的に行う。</p> <p>・地域・関係諸機関等と連携し、懇談や協議を通して教育活動の一層の充実を図る。</p>	<p>・今年度の学校評価アンケートの結果を踏まえ、来年度から運用が始まる「校務支援システム」を活用し、日々の学校生活について積極的に発信すると共に、学校ホームページ・学校 Facebook の記事更新についても周知を図ることで、学校ホームページ・学校 Facebook の活用を推進する。【取組内容の達成状況：C】</p> <p>・小笠原小学校と小中の連携を深めるべく、様々な取組に着手したが、これらのことを評価する項目が学校評価アンケートに設定されていなかった。次年度は学校評価項目及び評価方法を見直し、重点目標の成果と課題を客観的に分析できるように改善する。【取組内容の達成状況：B】</p>

## 5 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

### ① 確かな学力の向上

・生徒による授業評価の結果や、国・都・村の学力調査の結果を分析し、「指導と評価の一体化」の視点に立った適切な学習活動や評価計画、授業改善推進プランへの反映等を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

➡授業アンケート項目1「授業を受けることが「楽しい」と感じられる。」について、A評価（そう思う）の割合を全教科平均して60%以上にする。

・月に2回ほど放課後学習教室「おが中寺子屋」を開催するなど、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。

➡・学校評価項目6「学習指導全般において、基礎基本の定着に努めている」では、のA評価（そう思う）34%を50%以上にする。

### ② 豊かな心の育成

・心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進し、人間性を豊かにするとともに、学習者用端末やドリル型学習コンテンツを活用し、不登校生徒の学習権を保証するなど、現在の様々な人権課題に適切に対応する。

➡学校評価項目16「生活指導上の諸問題に対して適切に指導が行われている」のA評価（そう思う）17%を30%以上にする。

・道徳的価値に基づいた自己の生き方について考えを深め、自他の違いを認め尊重する思いやりの心情を基盤に、コミュニケーション能力の育成をねらいとした道徳の校内研究を進める。

➡学校評価項目12「生徒の道徳性を高めるために、全教員で道徳授業に取り組むなど、授業を工夫している」のA評価（そう思う）30%を+10にする。

### ③ 信頼される学校づくり

・学校評価アンケートを実施し、地域・保護者の願いや思いを学校の教育活動に反映させていくとともに、「地域懇談会」を開催し、広く地域・保護者と情報共有や協議等を行うことを通して、「社会に開かれた学校」の実現を目指す。

➡学校評価項目19「教職員は保護者に丁寧に対応し、いつでも相談できる」のA評価（そう思う）30%を+10にする。

・令和6年度から運用が始まる「統合型校務支援システム」を活用し、日々の学校生活について積極的に発信すると共に、学校ホームページ・学校 Facebook の記事更新についても周知を図ることで、学校ホームページ・学校 Facebook の活用を推進する。

➡学校評価項目20「学校ホームページを活用している」のA評価（そう思う）6%を+10に、学校評価項目21「学校 Facebook を活用している」のA評価（そう思う）4%を+10にする。

・小中一貫教育の充実を重点目標とし、小笠原小学校とは、各教科の内容のまとめり等において、中学校教員の専門性を活かしたティーム・ティーチングを実施し、小中一体となって教科担任制を推進する。

➡学校評価項目に「小中学校が協力して、児童生徒の教育に取り組んでいるか」という質問を追加しA評価（そう思う）70%以上にする。

\*本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。